

AVANT GRAND

N1

取扱説明書

ご使用前に必ず4～7ページの「安全上のご注意」をお読みください。
製品の組み立てやお引越しの際は、AvantGrandの正規取扱店にご依頼
ください。(組み立て手順は37ページ参照)

ハイブリッドピアノ AVANT GRAND

100年以上の時を経て得たピアノづくりの経験と、21世紀の最新技術がひとつに融け合い、今の時代にふさわしいピアノが誕生しました。

専用グランドピアノアクションとピアノ鍵盤による本物のタッチ感

グランドピアノの豊かな表現力は、繊細なタッチ感とレスポンスにより支えられています。ヤマハがグランドピアノづくりで培ったその技術を応用し、AvantGrand専用グランドピアノアクションは完成しました。グランドピアノと同様のアクションを搭載し、ハンマーの動きや、それぞれのハンマーの重量配分をきめ細かに調整することにより、滑らかな弾き心地を実現しました。鍵盤には、グランドピアノと同じ木製鍵盤を採用しており、アコースティックグランドピアノに限りなく近い自然なタッチ感をお楽しみいただけます。

臨場感あふれるグランドピアノ音色

グランドピアノ音色は、独自のサンプリング音源システム「スペシャル・アコースティック・サンプリング」を採用。従来の電子ピアノで行っていた右、左に加え、センター、そしてリアの4ヶ所でサンプリングしました。最適なポジションでサンプリングすることで、原音の魅力をほとんどそのままに再現することを可能にしました。

また、スピーカーは音源に対応した「スペシャル・アコースティック・スピーカーシステム」を採用しています。それぞれのスピーカーには、ひとつずつ専用アンプを搭載。これは、各帯域の音の干渉を避けるとともに、それぞれの音のニュアンスをより自然に表現するためのぜいたくな音響システムです。

これらのシステムにより、グランドピアノならではの奥行きのある豊かな音の響きが、弾く人のポジションにいちばん心地よく届きます。

調律なしでベストコンディション

AvantGrandは、アコースティックピアノとは異なり、調律の必要がありません。長期間のご使用に関わらず、いつでも最良の音で演奏することができます。

音量調節が自由自在

演奏する時間や状況に合わせて、音の大小を自由に調節できます。また、ヘッドフォンを使用すれば、周囲のかたに気がねなく演奏できます。

目次

安全上のご注意	4
---------------	---

基本編

簡単な準備だけでピアノ演奏を楽しめます。さっそく音を出してみましょう。

各部の名前	8
音を出してみましょう	9
ペダルを使う	11
ヘッドフォン(別売)を使う	11
譜面立てを使う	12

応用編

演奏を録音するなど、楽器を便利に使いこなすための機能を説明しています。

プリセットソング(内蔵曲)を聞く	13
楽器を使いこなす	15
音色を選ぶ	15
音色デモ曲を聞く	16
メトロノームを使う	17
タッチ感を変える(タッチ)	19
音に残響を付ける(リバーブ)	19
キー(調)を変える(トランスポーズ)	20
音の高さを微調整する(チューニング)	21
音律(調律法)を選ぶ	22
演奏を録音(記録)する	23
本体に録音した曲を再生する	24
録音した曲をUSBフラッシュメモリーに保存する	25
USBフラッシュメモリー内の曲を聞く	27
USBフラッシュメモリーのフォーマット(初期化) ...	29
バックアップデータと楽器の初期化	30
内部メモリーへのデータバックアップ	30
初期化(イニシャライズ)の方法	30
外部機器と接続する	31
端子について	31
MIDIについて	33
コンピューターと接続する	33
ローカルコントロールオン/オフの設定をする	34

付録

メッセージ一覧などの資料やクイックオペレーションガイドを掲載しています。

メッセージ一覧	35
困ったときは	36
N1の組み立て方	37
仕様	39
索引	40
クイックオペレーションガイド	41
保証とアフターサービス	43

* 鍵盤を使って操作する機能を一覧できます。

付属品(お確かめください)

- ☐ 保証書
- ☐ 取扱説明書(本書)
- ☐ 電源コード
- ☐ キーカバー
- ☐ 高低自在イス
- ☐ ユーザー登録のご案内*

* ユーザー登録の際に記載されているプロダクトID (PRODUCT ID)が必要です。

データリスト

「MIDIデータフォーマット」や「MIDIインプリメンテーションチャート」などMIDIに関する資料が、ヤマハマニュアルライブラリーからダウンロードできます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名(「N1」など)を入力して「検索」ボタンを押します。

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

 	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
   	～しないでくださいという「禁止」を示します。
  	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

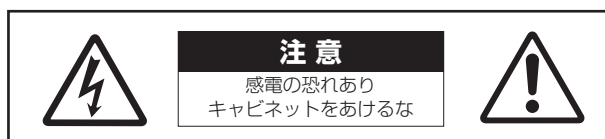


注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」



警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。

他の電源コード/プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

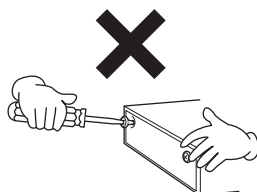
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上ろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおい煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



注意

電源 / 電源コード



禁止

たこ足配線をしない。

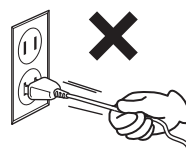
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。





必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。

手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

この製品を持ち運ぶ場合は、必ず2人以上で行なう。

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

鍵盤蓋や本体のすき間に手や指を入れない。また、鍵盤蓋で指などをはさまないように注意する。

お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

鍵盤蓋やパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



イス



禁止

不安定な場所に置かない。

イスが転倒して、お客様や他の方々がけがをする原因になります。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



禁止

イスにすわったままでイスの高さを調節しない。

高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。

イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。



必ず実行

イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意する。

イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- ・ テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- ・ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃～40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- ・ 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- ・ 本体の表面に金属、陶器、その他硬い物を当てないでください。表面にひびが入ったり、はがれたりする原因になります。
- ・ 手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- ・ 本体のほこりや汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。強く拭くと、ほこりの粒子で本体の表面に傷がつく場合があります。
- ・ 極端に湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。

■ データの保存に関する注意

- ・ 本体に録音したソングデータは電源を切っても保持されますが、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリーなどのUSB記憶装置に保存してください(25ページ)。
- ・ 保存したUSB記憶装置の万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSB記憶装置にバックアップとして保存されることをおすすめします。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ・ ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・ この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・ この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・ MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・ その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

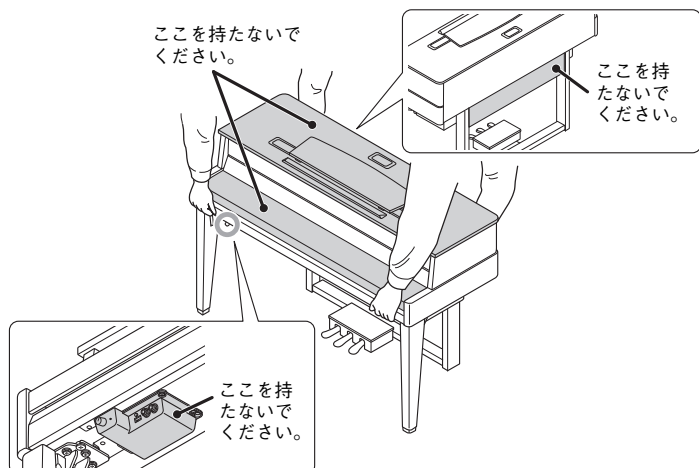
移動と設置

本体は立てかけたり、裏返したりせず、必ず水平にしてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。お引越しの際は、専門の業者にご依頼ください。

⚠ 注意

本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。そのときヘッドフォン端子部分やスピーカーネットは持たないようご注意ください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

より良い音響をお楽しみいただくために、本体の背面を壁から15cm以上離して設置してください。また、設置後に本体がぐらつく場合は、付属のフェルトをご利用ください。詳しくはフェルトに付属の説明をご覧ください。



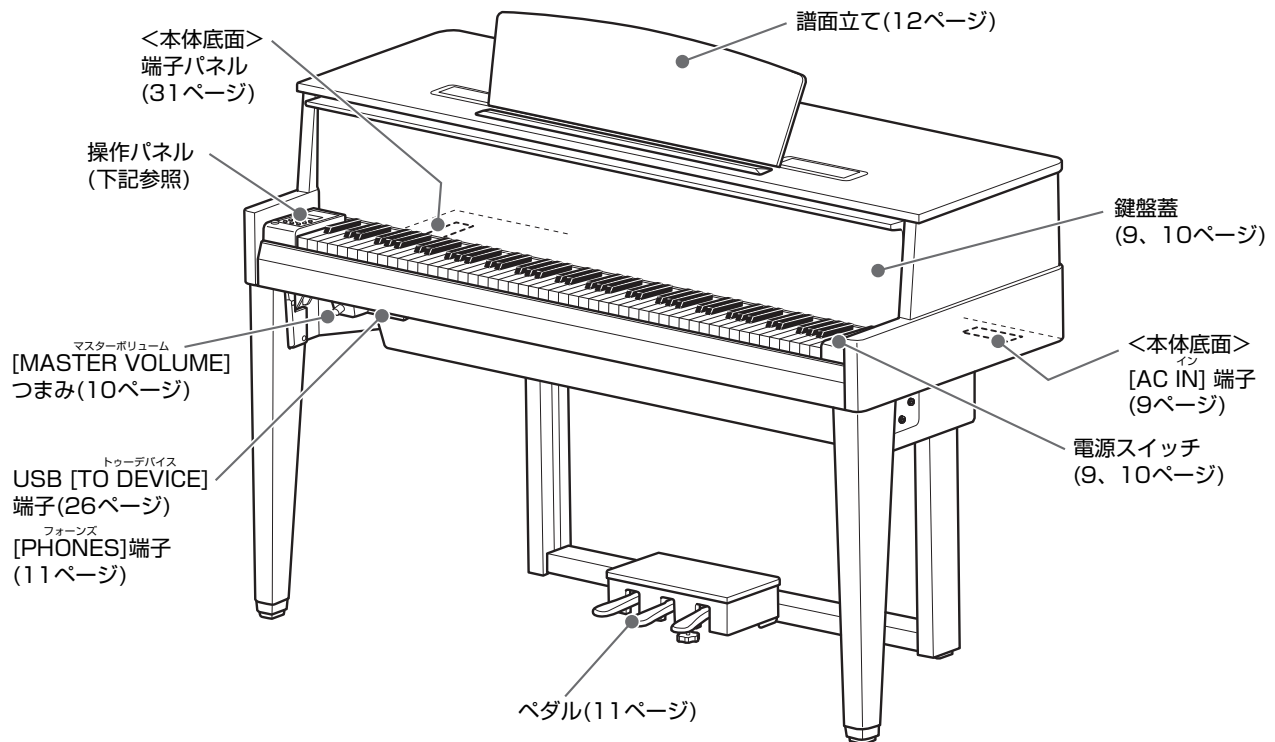
調律について

この楽器は調律の必要がありません。

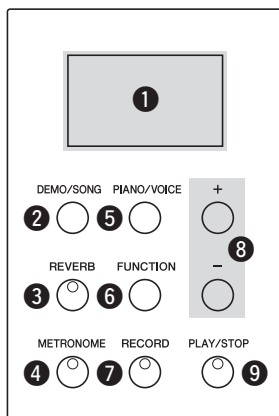
ただし、タッチに違和感を感じた場合には、お買い上げ店、または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

各部の名前

概観



操作パネル



- ① 画面 下記参照
- ② [DEMO/SONG] ボタン 13、16、24、27 ページ
- ③ [REVERB] ボタン 19 ページ
- ④ [METRONOME] ボタン 17 ページ
- ⑤ [PIANO/VOICE] ボタン 15 ページ
- ⑥ [FUNCTION] ボタン 20、21、22、34 ページ
- ⑦ [RECORD] ボタン 23 ページ
- ⑧ [+]/[-] ボタン
- ⑨ [PLAY/STOP] ボタン 13、16、24、27 ページ

● 画面

操作の結果をパネルの画面で確認しながら進めてください。場面に応じて、たとえば下記のような表示になります。表示は設定が終わると消えます。



(ソング番号)



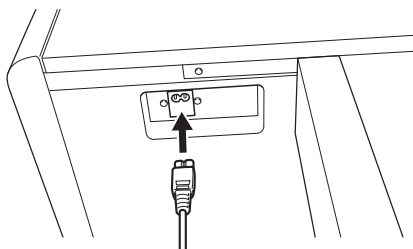
(各種設定値)

詳しくは、各機能の説明をご覧ください。また、メッセージ一覧 (35 ページ) もご参照ください。

音を出してみましょう

1 電源コードを接続する

1-1 電源コードの本体側のプラグを[AC IN^{イン}]端子に差し込みます。[AC IN]端子の位置は「各部の名前」(8ページ)でご確認ください。



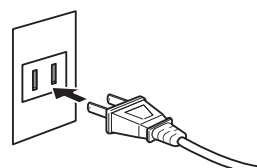
1-2 コンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込みます。

⚠ 警告

電源は必ずAC100Vを使用してください。

⚠ 警告

電源コードは必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用すると、発熱や感電の原因になります。



2 鍵盤蓋を開ける

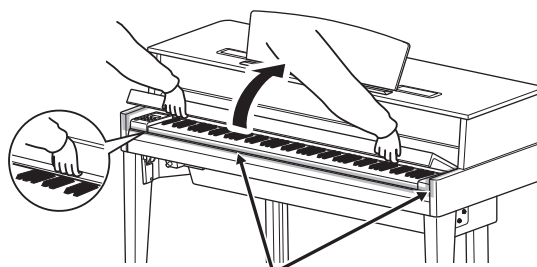
本体正面のくぼみに手を掛け、鍵盤蓋を持ち上げます。

⚠ 注意

鍵盤蓋を開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、鍵盤蓋の端と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。

⚠ 注意

鍵盤蓋を開けると、鍵盤蓋の上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。本体の内部に物が入ってしまった場合は、お買い上げ店、または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。



⚠ 注意

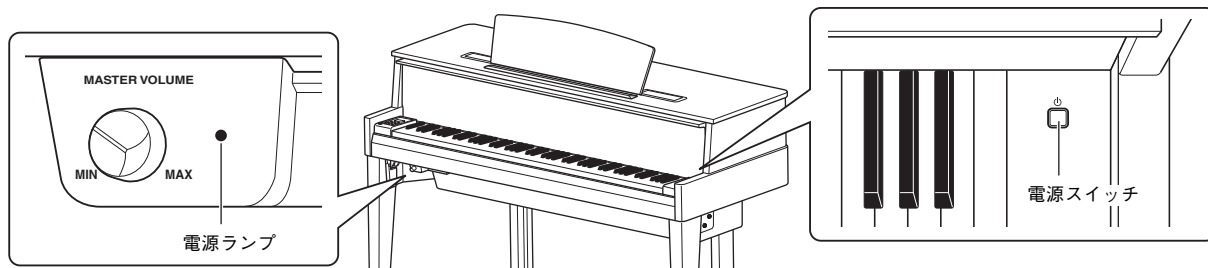
手や指をはさまないように注意

3 電源を入れる

鍵盤の右側にある[⏻]電源スイッチを押します。電源が入り、電源ランプが点灯します。



鍵盤の左側にある画面の表示が点滅し、点滅が終わると楽器が起動します。

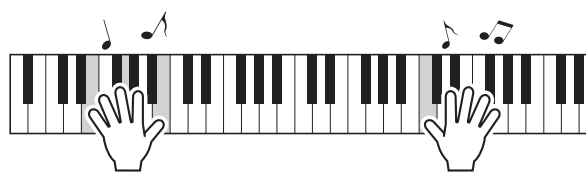


注記

電源スイッチを入れてから、楽器が完全に起動するまで(約8秒間)は、鍵盤を押さないでください。鍵盤の音が正常に出なくなることがあります。

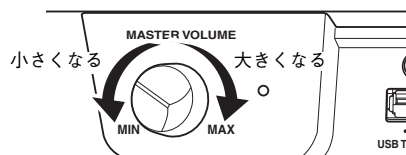
4 鍵盤を弾く

鍵盤を弾いて、音を出してみましょう。



音量を調節する

音量は、本体パネル左の[MASTER VOLUME]^{マスターボリューム}つまみで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



⚠ 注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

5 電源を切る

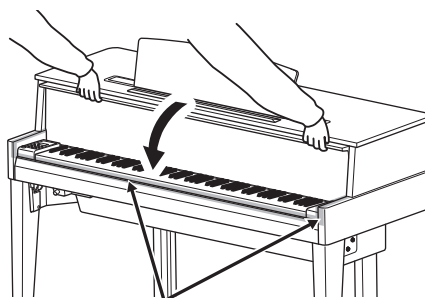
もう一度[⏻]電源スイッチを押します。電源が切れると、電源ランプが消灯します。

注記

電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。楽器を長時間使用しないときは必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

6 鍵盤蓋を閉める

鍵盤蓋に手を掛け、静かに下ろします。

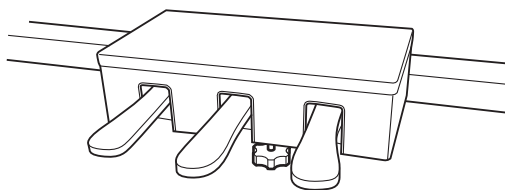


⚠ 注意

手や指をはさまないように注意

ペダルを使う

ペダルには、右のペダル(ダンパーペダル)とまん中のペダル(ソステヌートペダル)、左のペダル(ソフトペダル)があります。これらはピアノ演奏で使われます。

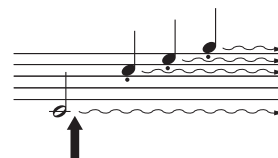


右のペダル(ダンパーペダル)

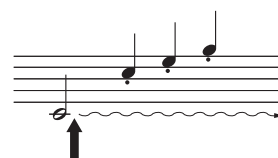
このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても弾いた音を長く響かせることができます。ダンパーペダルはハーフペダル機能に対応しています。

ハーフペダル機能とは

ペダルの踏み加減で音の伸び具合が調節できる機能です。ペダルを踏みこむほど音が長く伸びます。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。

左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます)。

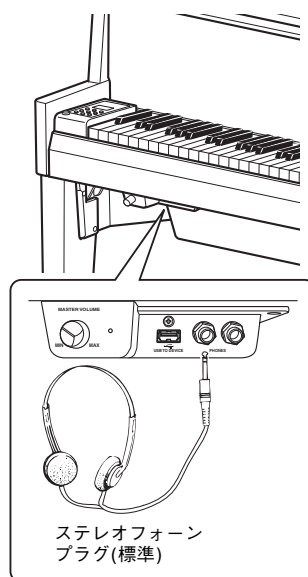
ヘッドフォン(別売)を使う

ヘッドフォンを使う場合は、楽器本体底面の左側に^{フォーンズ}[PHONES]端子に接続します。ヘッドフォンを接続すると自動的にスピーカーから音が出なくなります。

[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

⚠ 注意

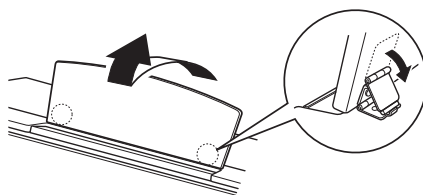
大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。



譜面立てを使う

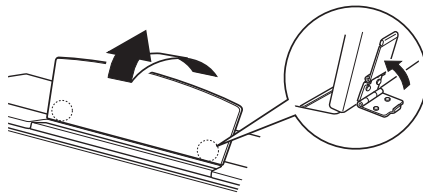
立てるとき

- 1 譜面立てを手前に起こします。
- 2 譜面立て裏にある左右2つの金具を下ろします。
- 3 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。



倒すとき

- 1 譜面立てを手前に起こします。
- 2 譜面立て裏にある左右2つの金具を上げます。
- 3 譜面立てに手を添えて、ゆっくり倒します。

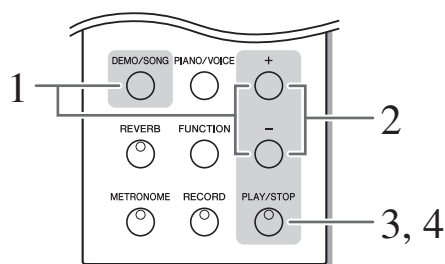


⚠ 注意

譜面立ては、金具が固定されない位置で使用または放置しないでください。また、譜面立てを立てるとき/倒すときは、途中で手を離さないでください。

プリセットソング(内蔵曲)を聞く

この楽器には、ピアノ曲の演奏データが入っています。聞いてみましょう。



1 プリセットソングモードに入る

デモ ソング
[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押して、画面に「*PD 1*」を表示させます。

PD 1

2 選曲する

[+]または[-]ボタンを押して、曲を選びます。

- *PD 1*~*P 10* 曲番号を指定して1曲だけ再生します。
- *PRL* 曲を順番に、ストップするまで連続再生します(オール再生)。
- *Prd* 曲を順不同に、ストップするまで連続再生します(ランダム再生)。

3 再生をスタートする

プレイ ストップ
[PLAY/STOP]ボタンを押すと再生がスタートします。
再生中に[+]または[-]ボタンを押すと、プリセットソングを切り替えることができます。

4 再生をストップする

[PLAY/STOP]ボタンを押します。

ソングとは

本書では、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。プリセットソングやデモ曲も演奏データです。

モードとは

ある機能を実行できる状態を意味します。ここでは、プリセットソングを選択できる状態のことを「プリセットソングモード」と呼んでいます。

ランダム再生とは

曲の中から曲順を楽器が決め、その順番に再生します。曲の停止中に[PLAY/STOP]ボタンを押すと曲順を組み替えて再生します。

再生に合わせて、自分で鍵盤を弾くこともできます。

テンポの調節

プリセットソング再生中に、[METRONOME]ボタンを押したまま[+]または[-]ボタンを押すとテンポが変更できます。
プリセットソング再生中に、メトロノーム(17ページ)を使っている場合は、[+]または[-]ボタンを押すとテンポが変更できます。鍵盤を使ってテンポを設定することもできます。

プリセットソングはMIDI送信されません。

鍵盤を使って選曲、再生する

鍵盤を使って直接選曲し、再生スタートすることもできます。

● 1曲選んで再生する

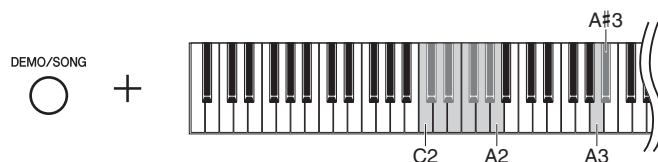
[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、C2～A2鍵盤のどれかを押します。

● オール再生する

[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、A3鍵盤を押します。

● ランダム再生する

[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、A#3鍵盤を押します。



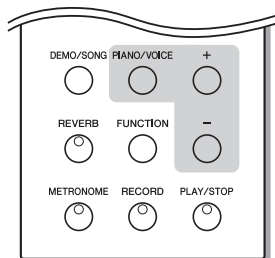
プリセットソングの再生がスタートします。

プリセットソング

画面	鍵盤	曲名	作曲者
P01	C2	夜想曲 第1番 op.9-1	F. F. ショパン
P02	C#2	おとめの願い (6つのポーランドの歌より)	F. リスト
P03	D2	幻想即興曲	F. F. ショパン
P04	D#2	ゴルトベルク変奏曲 アリア BWV.988	J. S. バッハ
P05	E2	月の光	C. A. ドビュッシー
P06	F2	ソナタ K.380, L.23	D. スカルラッティ
P07	F#2	ピアノ ソナタ 第14番 「月光」 第1楽章 op.27-2	L. v. ベートーヴェン
P08	G2	ピアノ ソナタ 第5番 第1楽章 K.283	W. A. モーツァルト
P09	G#2	ワルツ 第10番 op.69-2	F. F. ショパン
P10	A2	コンソレーション 第3番	F. リスト

楽器を使いこなす

音色を選ぶ



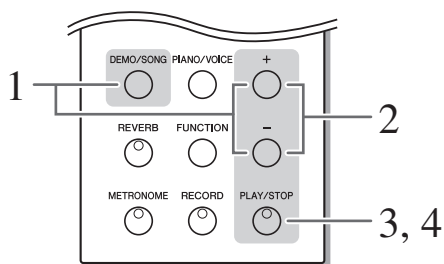
ピアノ ボイス
[PIANO/VOICE] ボタンを押して離すとグランドピアノ1が選ばれます。
[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま、[+]または[-] ボタンを押すと音色が切り替わります。
マスターボリューム
[MASTER VOLUME] つまみで音量を調節しながら演奏してください。

画面	音色名	音色紹介
1	グランドピアノ1	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
2	グランドピアノ2	明るい響きを持った広がりのあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
3	エレクトリックピアノ1	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
4	エレクトリックピアノ2	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
5	ハープシコード	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はありません。

音色の特徴をつかむには
音色ごとのデモ曲を聞いてみてください(16ページ)。

音色デモ曲を聞く

この楽器には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。



1 デモ曲モードに入る

デモ ソング
[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押して、画面に「*d01*」を表示させます。



2 選曲する

[+]または[-]ボタンを押して、曲を選びます。

3 再生をスタートする

プレイ ストップ
[PLAY/STOP]ボタンを押すと再生がスタートします。
再生中に[+]または[-]ボタンを押すと、デモ曲を切り替えることができます。

4 再生をストップする

[PLAY/STOP]ボタンを押します。

[DEMO/SONG]ボタンだけを押すと、現在選ばれている音色のデモ曲の再生がスタートします。

再生に合わせて、自分で鍵盤を弾くこともできます。

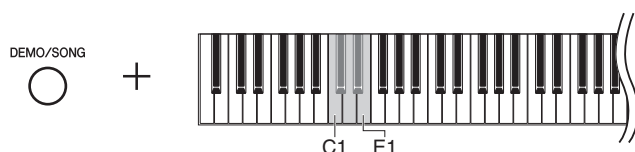
テンポの調節

デモ曲再生中に、[METRONOME]ボタンを押したまま[+]または[-]ボタンを押すとテンポが変更できます。
デモ曲再生中にメトロノーム(17ページ)を使っている場合は、[+]または[-]ボタンを押すとテンポが変更できます。鍵盤を使ってテンポを設定することもできます。

デモ曲はMIDI送信されません。

鍵盤を使って選曲、再生する

音色デモ曲から1曲直接選ぶには、[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、C1～E1鍵盤のどれかを押します。



↓
デモ曲の再生がスタートします。

デモ曲

すべての音色に、その音色にふさわしいデモ曲が割り当てられています。

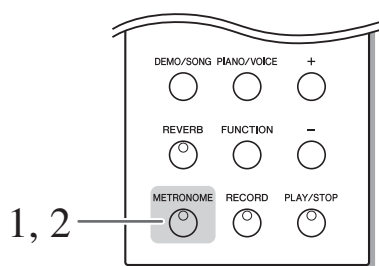
d01、*d05*の曲は、原曲から編集/抜粋されています。

その他の曲は、オリジナル曲です。(©2010 Yamaha Corporation)

画面	鍵盤	音色名	曲名	作曲者
<i>d01</i>	C1	グランドピアノ1	溜め息(3つの演奏会用練習曲より)	F. リスト
<i>d02</i>	C#1	グランドピアノ2	—	—
<i>d03</i>	D1	エレクトリックピアノ1	—	—
<i>d04</i>	D#1	エレクトリックピアノ2	—	—
<i>d05</i>	E1	ハーブシコード	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV.1058	J. S. バッハ

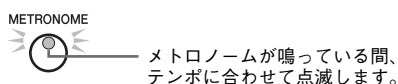
メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)機能を備えています。ご使用ください。



1 メトロノームを鳴らす

メトロノーム
[METRONOME]ボタンを押します。



2 メトロノームを止める

[METRONOME]ボタンを押します。

テンポの調節

メトロノームが鳴っている状態で[+]または[-]ボタンを押すと、テンポの調節ができます。

● テンポを1ずつ上げる

メトロノームが鳴っている状態で[+]ボタンを押します。
または、[METRONOME]ボタンを押したままC#5鍵盤を押します。

● テンポを1ずつ下げる

メトロノームが鳴っている状態で[-]ボタンを押します。
または、[METRONOME]ボタンを押したままB4鍵盤を押します。

● テンポを10ずつ上げる

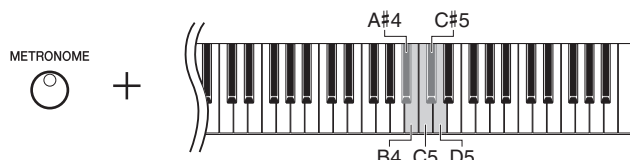
[METRONOME]ボタンを押したままD5鍵盤を押します。

● テンポを10ずつ下げる

[METRONOME]ボタンを押したままA#4鍵盤を押します。

● テンポを初期設定に戻す

メトロノームが鳴っている状態で[+]と[-]ボタンを同時に押します。
または、[METRONOME]を押したままC5鍵盤を押します。



設定範囲：5～500(1分間の拍数)
初期設定：120

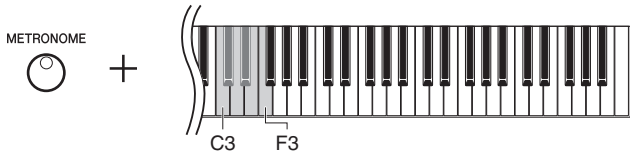
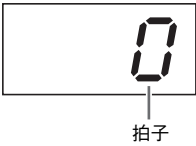
メトロノームのテンポは、電源を切ると初期設定に戻ります。

ソングの再生中は、そのソングのテンポになります。

メトロノームが鳴っていない状態のときは、[METRONOME]ボタンを押したまま、[+]と[-]ボタンを同時に押してテンポを初期設定に戻します。

拍子の設定

[METRONOME] ボタンを押したまま、C3～F3鍵盤のどれかを押します。この間、画面にはメトロノームの拍子が表示されます。
最初の拍で「チーン」と鳴り、その他の拍では「カチカチ」と鳴ります。たとえば3/4 に設定すると「チーンカチカチ」と鳴ります。拍子なしの場合は、すべての拍で「カチカチ」と鳴ります。



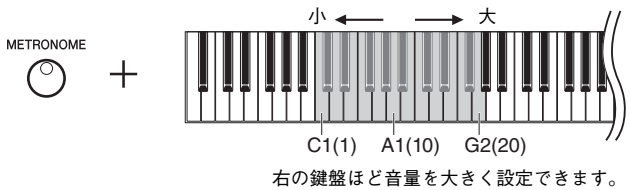
画面	鍵盤	拍子
0	C3	拍子なし
2	C#3	2/4
3	D3	3/4
4	D#3	4/4
5	E3	5/4
6	F3	6/4

初期設定：拍子なし

メトロノームの拍子は、電源を切ると初期設定に戻ります。

音量の調節

[METRONOME] ボタンを押したまま、C1～G2鍵盤のどれかを押して音量を設定します。この間、画面にはメトロノームの音量が表示されます。



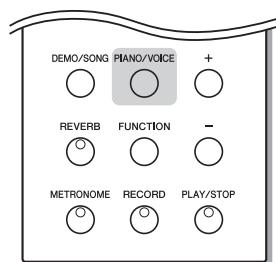
設定範囲：1～20

初期設定：10

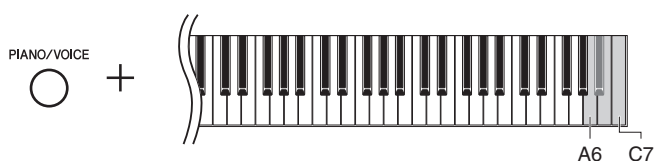
メトロノーム音量の設定は、電源を切っても記憶されています。

タッチ感を変える(タッチ)

鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。



^{ピアノ} [PIANO/VOICE] ボタンを押したまま、A6～C7の鍵盤を押してタッチ感度を設定します。この間、画面にはタッチの番号が表示されます。



画面	鍵盤	タッチの種類	説明
OFF	A6	フィックス	弱く弾いても強く弾いても鳴る音の強弱は変わりません。
1	A#6	ソフト	軽いタッチで大きい音を出すことができます。
2	B6	ミディアム	標準的なピアノタッチです。
3	C7	ハード	強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。

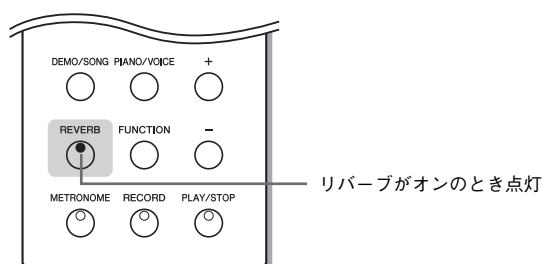
初期設定：2(ミディアム)

タッチの種類は、電源を切ると初期設定に戻ります。

鍵盤自体の重さは変わりません。

音に残響を付ける(リバーブ)

グランドピアノの響きを再現した残響効果を加えることができます。また、その深さ(かかり具合)を変えることもできます。



^{リバーブ} [REVERB] ボタンを押して、リバーブのオン/オフを切り替えます。

リバーブの深さ設定

[REVERB] ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押して、リバーブの深さを設定します。この間、画面にはリバーブの深さが表示されます。



設定範囲：1～20

初期設定：5

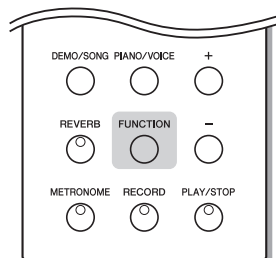
リバーブの深さは、電源を切ると初期設定に戻ります。

[REVERB] ボタンだけを押すと、押している間はリバーブの設定値が表示されます。

キー (調) を変える (トランスポーズ)

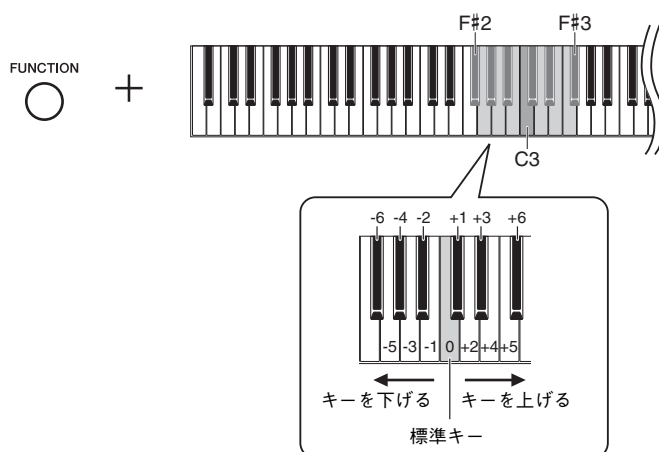
弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さに半音単位でキー (調) を合わせることができます。この機能をトランスポーズ (移調) といいます。

たとえばトランスポーズを「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。



ファンクション

[FUNCTION] ボタンを押したまま、F#2～F#3 鍵盤のどれかを押してトランスポーズを設定します。この間、画面にはトランスポーズ量が表示されます。



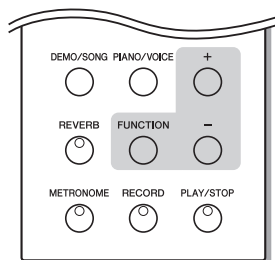
初期設定：0 (標準キー)

トランスポーズ量は、電源を切ると初期設定に戻ります。

C3 鍵盤を押すと標準の音の高さになります。F#2～B2 鍵盤を押すと半音単位でキーが下がり、C#3～F#3 鍵盤を押すと半音単位でキーが上がります。

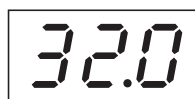
音の高さを微調整する(チューニング)

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。



● 音の高さを上げる(約0.2Hz単位)

ファンクション
[FUNCTION]ボタンを押したまま[+]ボタンを押します。この間、画面には音の高さ(Hz)が表示されます(100の位は表示されません)。



例：432.0Hzの場合

● 音の高さを下げる(約0.2Hz単位)

[FUNCTION]ボタンを押したまま[-]ボタンを押します。この間、画面には音の高さ(Hz)が表示されます(100の位は表示されません)。

● 初期設定に戻す

[FUNCTION]ボタンを押したまま、[+]と[-]ボタンを同時に押します。この間、画面には音の高さ(Hz)が表示されます(100の位は表示されません)。

チューニング値は、電源を切っても記憶されています。

Hzとは

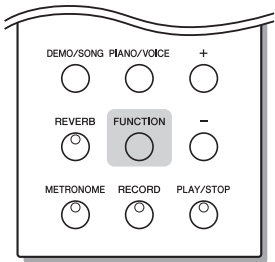
音の高さを示す単位です(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです)。

設定範囲：414.8～466.8Hz
(=A3)

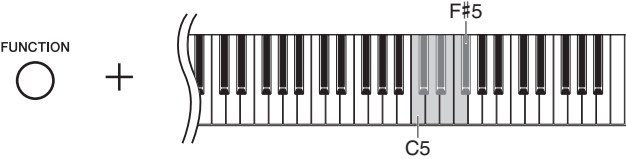
初期設定：440.0Hz (=A3)

音律(調律法)を選ぶ

音律(調律法)を選ぶ機能です。現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。



ファンクション
[FUNCTION]ボタンを押したままC5～F#5鍵盤のどれかを押して音律を設定します。この間、画面には音律番号が表示されます。



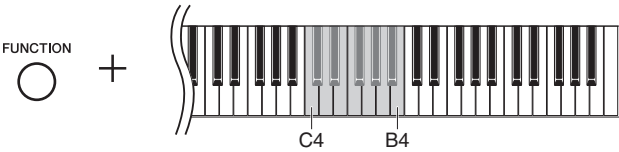
画面	鍵盤	音律	説明
1	C5	平均律	1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーな、ピアノの調律法です。
2	C#5	純正律 長調	自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどにみられます。
3	D5	純正律 短調	
4	D#5	ピタゴラス音律	ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた、5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。
5	E5	中全音律	ピタゴラス音律の3度のうなりをなくすために改良された音律です。16世紀後半から18世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。
6	F5	ヴェルクマイスター音律	中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、それぞれの組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の曲をパープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。
7	F#5	キルンベルガー音律	

初期設定：平均律

音律は、電源を切ると初期設定に戻ります。

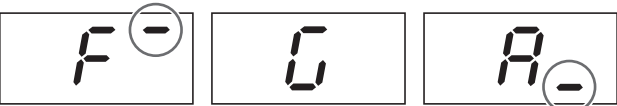
音律の基準となる音(ベース音)を変える

[FUNCTION]ボタンを押したまま、C4～B4鍵盤のどれかを押して音律を設定します。この間、画面にはベース音が表示されます。



鍵盤	ベース音	鍵盤	ベース音	鍵盤	ベース音	鍵盤	ベース音
C4	C	D#4	E♭	F#4	F#	A4	A
C#4	C#	E4	E	G4	G	A#4	B♭
D4	D	F4	F	G#4	A♭	B4	B

表示例



F# (シャープのとき上に「#」)
G
A♭ (フラットのとき下に「b」)

初期設定：C

ベース音は、電源を切ると初期設定に戻ります。

演奏を録音(記録)する

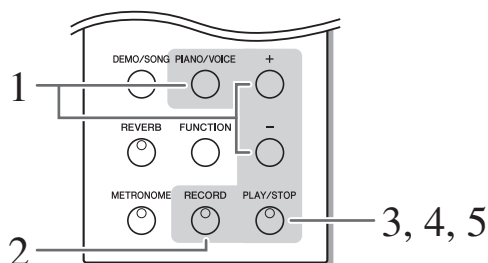
この楽器では、録音機能を使って自分の演奏を録音できます。自分の演奏を録音/再生してみましょう。

「録音」と「記録」

カセットテープに録音するのと楽器内の録音機能を使って録音(記録)するのとでは、録音されるデータの形式が異なります。

カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、楽器内の録音機能では音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いたか、また音色はなにか、テンポはいくつで…」という情報が「記録」されます。再生時は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。

この楽器の録音機能を使った「録音」は、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。



1 録音する音色を選ぶ

[PIANO/VOICE]^{ピアノ ボイス}ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押して演奏したい音色を選びます(15ページ)。^{マスターボリューム}[MASTER VOLUME]つまみで弾きやすい音量に設定してください。

2 録音モードに入る

[RECORD]^{レコード}ボタンを押します。

[RECORD]ランプが点灯し、[PLAY/STOP]^{プレイ ストップ}ランプが点滅します。



録音を中止する場合は、もう一度[RECORD]ボタンを押します。

注記

楽器本体にすでに演奏が録音されている状態で、楽器への録音をスタートすると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

音量は、再生のときにも[MASTER VOLUME]つまみで調節することができます。

音色デモ曲などのソング再生中は、録音モードに入ることができません。

楽器本体には1曲だけ(約300KB=約30,000音符)録音できます。

本体に録音したデータは、電源を切っても記憶されています。

本体に録音したデータは、USBフラッシュメモリーに保存することができます(25ページ)。

楽器にUSBフラッシュメモリーが接続されている場合は、USBフラッシュメモリーに直接録音されません。

USBフラッシュメモリーに十分な空き容量がなかったり、U00～U99のファイルがすでに存在する場合は、「Full」と表示され録音モードに入ることができません。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、26ページをご覧ください。

3 録音をスタートする

鍵盤を弾くと録音が始まります。

または[PLAY/STOP]ボタンを押しても録音が始まります。



[RECORD]ランプと[PLAY/STOP]ランプが点灯します。

4 録音をストップする

[RECORD]ボタンまたは[PLAY/STOP]ボタンを押します。



録音データの書き込みがスタートします。

録音が完了すると、画面に「End」が3秒表示されます。



注記

楽器がデータを書き込んでいるとき(画面に「- - -」表示中)は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。録音中のデータだけでなく、すべての記憶内容が失われる原因になります。

5 録音したソングを再生する

[PLAY/STOP]ボタンを押すと録音した演奏が再生されます。

メトロノームを使う

メトロノームを鳴らしながら録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

録音中に記憶残容量がなくなると、画面に「FUL」と表示され、録音が自動的にストップします(それまでの演奏データは録音され残ります)。

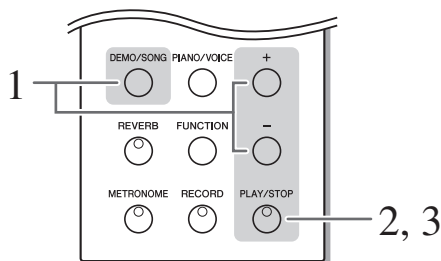
録音したデータを削除するには

楽器本体に録音した場合は、[RECORD]ボタンを押したあと、[PLAY/STOP]ボタンで録音をスタートし、何もせず[PLAY/STOP]ボタンで録音をストップします。USBフラッシュメモリーに録音した場合は、コンピューターを使って削除してください。

USBフラッシュメモリーに録音した場合は、録音後にほかの曲を選択したり、USBフラッシュメモリーを抜き差しすると[PLAY/STOP]ボタンを押しても再生できません。27ページの「USBフラッシュメモリー内の曲を聞く」の方法で再生してください。

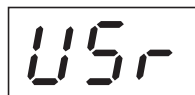
本体に録音した曲を再生する

録音機能(23ページ)を使って楽器本体に録音した曲を再生します。再生しながら、ご自身で演奏することもできます。USBフラッシュメモリーに録音(保存)した曲の再生のしかたについては、27ページをご覧ください。



1 ユーザーソングモードに入る

^{デモ} [DEMO/SONG]ボタンを押したまま、^{ソング} [+]または[-]ボタンを押して、画面に「U5r」を表示させます。



2 再生をスタートする

^{プレイ} ^{ストップ} [PLAY/STOP]ボタンを押すと再生がスタートします。

3 再生をストップする

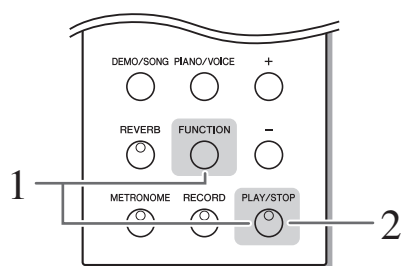
もう一度[PLAY/STOP]ボタンを押します。

ユーザーソングとは

本書では、楽器本体に録音したソングを「ユーザーソング」と呼んでいます。

録音した曲をUSBフラッシュメモリーに保存する

楽器本体に録音したご自分の演奏をUSBフラッシュメモリーに保存できます。USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、26ページをご覧ください。



1 保存モードに入る

USBフラッシュメモリーが楽器に接続されているのを確認してから、^{ファンクション}[FUNCTION] ボタンを押しながら^{プレイ}[PLAY/STOP]^{ストップ}ボタンを押します。

↓
画面に「SR」が表示されたあと、「Uxx」(xxは数字)が表示されます。

保存を中止する場合は、次の手順に進む前に、[PLAY/STOP]以外のボタンを押します。

2 保存する

[PLAY/STOP]ボタンを押します。

↓
録音データの書き込みがスタートします。
保存が完了すると、画面に「End」が3秒表示されます。

End

注記

楽器がデータを書き込んでいるとき(画面に「--」表示中)は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。保存中のデータだけでなく、すべての記憶内容が失われる原因になります。

この楽器で録音した曲は、「USER FILES」フォルダー内に、「USERSONGxx.mid」(xxは00～99の数字)というファイル名で保存されます。

メモリー領域は、全部で100(000～099)です。

トウデバイス

USB [TO DEVICE]端子ご使用上の注意

USB [TO DEVICE]端子は、USBフラッシュメモリーなどのUSB記憶装置を接続する端子です。USB [TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

【NOTE】

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USB対応の記憶装置(フラッシュメモリーなど)

動作確認済みUSB機器については、ご購入の前にインターネット上の下記URLでご確認ください。

<http://www.yamaha.co.jp/product/piano-keyboard/usb/>

【NOTE】

上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

■ USB機器の接続

- USB [TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。
- 本機はUSB1.1に対応していますが、USB2.0の機器でも使用できます。ただし転送スピードはUSB1.1相当になりますので、ご了承ください。

USB記憶装置の取り扱いについて

本機にUSB記憶装置を接続すると、楽器本体で演奏したデータをUSB記憶装置に保存したり、USB記憶装置のデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSB記憶装置の数

同時に使用できるUSB記憶装置は、1台だけです。

■ USB記憶装置のフォーマット

USB記憶装置の中には、本機で使用する前にフォーマットが必要なものがあります。フォーマットを促すメッセージが表示された場合は、フォーマットを実行してください(29ページ)。

注記

フォーマットを実行すると、そのメディアの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USB記憶装置には、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用の前にお使いのUSB記憶装置のライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USB記憶装置の抜き差し

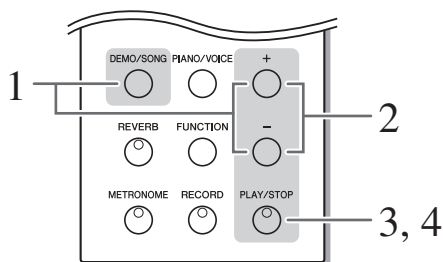
USB記憶装置を外すときは、保存/フォーマットなどデータのアクセス中でないことをあらかじめ確認したうえで外してください。

注記

USB記憶装置の頻繁な電源のオン/オフや抜き差しをしないでください。楽器本体の機能が停止するおそれがあります。保存/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

USBフラッシュメモリー内の曲を聞く

この楽器で録音し、USBフラッシュメモリーに保存した曲(25ページ)を聞くことができます。USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、26ページをご覧ください。



1 USBソングモードに入る

USBフラッシュメモリーが楽器に接続されているのを確認し

てから、[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押して、画面に「*Uxx*」または「*Fxx*」を表示させます(xxは00～99の数字)。

「*Fxx*」は、「*Uxx*」がないときに表示されます。また、USBフラッシュメモリーが接続されていない、またはUSBソングがない場合は、「*Uxx*」や「*Fxx*」は表示されません。



2 選曲する

[+]または[-]ボタンを押して、曲を選びます。

- *U00*～*U99* この楽器で録音してUSBフラッシュメモリーに保存した曲(25ページ)です。曲番号を指定して1曲だけ再生します。
- *F00*～*F99* コンピューターなどを使ってUSBフラッシュメモリーに保存した曲です。曲番号を指定して1曲だけ再生します。
- *UPL* USBフラッシュメモリー内の曲を順番に、ストップするまで連続再生します(オール再生)。
- *Ur d* USBフラッシュメモリー内の曲を順不同に、ストップするまで連続再生します(ランダム再生)。

3 再生をスタートする

[PLAY/STOP]ボタンを押すと再生がスタートします。

4 再生をストップする

[PLAY/STOP]ボタンを押します。

USBソングとは

本書では、USBフラッシュメモリーに保存したソングを「USBソング」と呼んでいます。

USBソングモードに入るとき、USBフラッシュメモリー内のフォルダー数によっては、画面が表示されるまで時間がかかる場合があります。

曲によってはスタートするまでに時間がかかる場合があります。

再生中の音色は、変更することができます。

再生に合わせて、ご自身で鍵盤を弾くことができます。このとき、音色は、再生中のソングの音色になります。

テンポの調節

USBソング再生中に、[METRONOME]ボタンを押したまま[+]または[-]ボタンを押すとテンポが変更できます。USBソング再生中にメトロノーム(17ページ)を使っている場合は、[+]または[-]ボタンを押すとテンポが変更できます。鍵盤を使ってテンポを設定することもできます。

初期設定：日本語

文字種の設定

この楽器で曲が読み込めない場合は、ファイル名やフォルダー名の文字種に問題がある場合があります。文字種を設定してください。

● 日本語

日本語やアルファベットを読み込めます(ウムラウトは読み込めません)。
[FUNCTION]ボタンと[METRONOME]ボタンを押したまま、電源を入れます。

● International

アルファベットやウムラウトを読み込めます(日本語は読み込めません)。
[FUNCTION]ボタンと[REVERB]ボタンを押したまま、電源を入れます。

鍵盤を使って選曲する

● 1曲進める

[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、C#5鍵盤を押します。

● 1曲戻す

[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、B4鍵盤を押します。

● 10曲進める

[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、D5鍵盤を押します。

● 10曲戻す

[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、A#4鍵盤を押します。

● 「Uxx」を選ぶ(xxは00～99の数字)

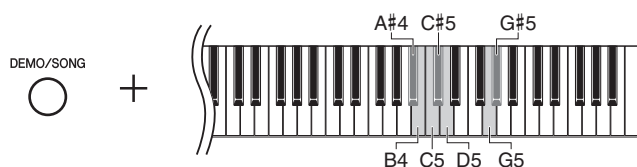
[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、C5鍵盤を押します。

● オール再生する

[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、G5鍵盤を押します。

● ランダム再生する

[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、G#5鍵盤を押します。



「Uxx」

U00～U99のうち、いちばん小さい番号が選ばれます。Uxxがない場合は、F00～F99のうち、いちばん小さい番号が選ばれます。USBフラッシュメモリーが接続されていない、またはUSBソングがない場合は、「U5r」が選ばれます。

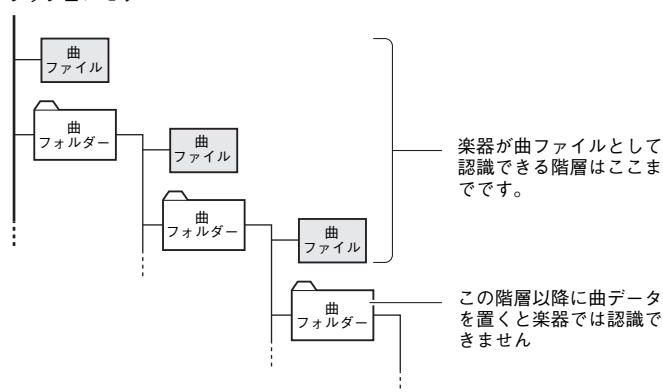
使用できるデータフォーマット

SMF(スタンダードMIDIファイル)[フォーマット0]と[フォーマット1]の曲が再生できます。

ただしピアノ以外の楽器を使用している曲を再生すると元のデータどおりに再生されない場合があります。

コンピューターなどでUSBフラッシュメモリーに曲をコピーする場合、ルートからルート上のフォルダー、またはルート上のフォルダー内につくったフォルダーの中に保存してください。これより下の階層のフォルダーに保存された曲は、この楽器では選択/再生できません。

USBフラッシュメモリー



コンピューターなどでUSBフラッシュメモリーに曲を保存する場合はSMF[フォーマット0]と[フォーマット1]形式で保存してください。

SMF(スタンダードMIDIファイル)とは

演奏データを記録する書式のことをシーケンスフォーマットといいます。SMF(スタンダードMIDIファイル)は代表的なシーケンスフォーマットの1つで、[フォーマット0]と[フォーマット1]があります。多くのMIDI機器が「SMFフォーマット0」に対応しており、また市販の曲の多くが、「SMFフォーマット0」で作られています。

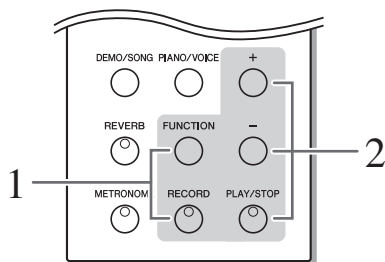
この楽器で録音した曲は、「SMFフォーマット0」の形式で保存されます。

USBフラッシュメモリーのフォーマット(初期化)

市販のUSBフラッシュメモリーを、この楽器で使える状態にすることをフォーマット(初期化)といいます。USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、26ページをご覧ください。

注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。



1 フォーマットモードに入る

フォーマットしたいUSBフラッシュメモリーが楽器に接続されているのを確認してから、ファンクション[FUNCTION]ボタンを押しながらレコード[RECORD]ボタンを押します。

↓
画面に「*For*」が表示されます。

For

2 フォーマットをスタートする

プレイ ストップ
[PLAY/STOP]ボタンを押すと、画面に「*ng*」が表示されます。フォーマットをスタートする場合には、[+]ボタンを押してください。フォーマットを中止する場合には、[-]ボタンを押してください。

↓
フォーマットが完了すると、画面に「*End*」が表示されます。

注記

フォーマット中(画面に「*---*」表示中)は、電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。USBフラッシュメモリーが壊れたり、データが壊れたりするおそれがあります。

3 フォーマットモードを抜ける

ボタンをどれか1つ押します。

バックアップデータと楽器の初期化

内部メモリーへのデータバックアップ

下記のデータは、楽器内部のフラッシュメモリーに保存されます。これらは電源を切っても記憶されています。

- メトロノームの音量(18ページ)
- チューニング(21ページ)
- 文字種(27ページ)
- 本体に録音したユーザーソングデータ(23ページ)

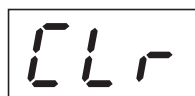
初期化(イニシャライズ)の方法

この操作をすると、文字種とユーザーソングデータ以外のデータが初期化されます(工場出荷時の状態になります)。

いったん電源を切り、^{メトロノーム}[METRONOME]ボタンと^{リバーブ}[REVERB]ボタンを押したまま電源を入れます。



↓
実行中は画面に「CLr」が表示されます。



注記

初期化実行中(「CLr」表示中)は電源を切らないでください。

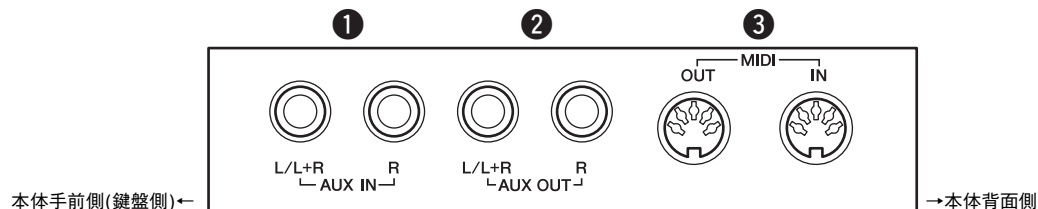
この楽器が、何らかの原因で操作不能になったり、誤動作した場合は、いったん電源を切り、初期化を行ってください。

外部機器と接続する

端子について

⚠ 注意

外部のオーディオ機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行なってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電または機器の損傷のおそれがあります。



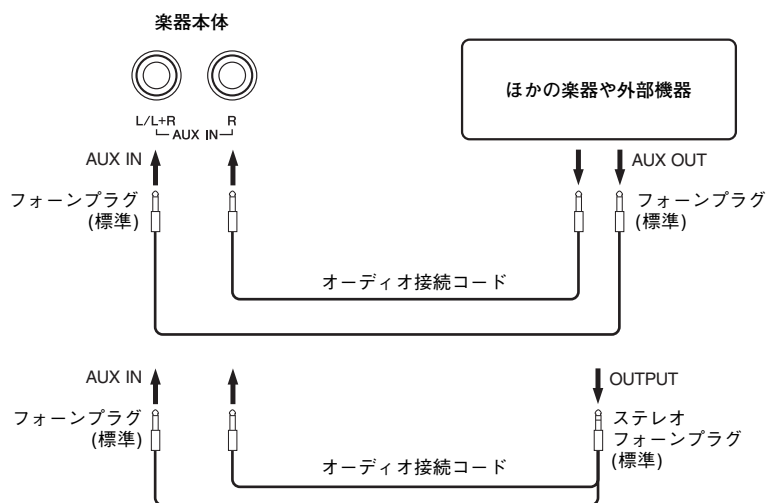
端子の位置については、8ページの「各部の名前」をご覧ください。

① ^{イン}AUX IN [L/L+R] [R]端子

ほかの楽器や外部機器の音を楽器本体のスピーカーから出すことができます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

⚠ 注意

楽器本体のAUX INを使う場合、電源を入れるときは外部機器→楽器本体の順に、電源を切るときは楽器本体→外部機器の順に行なってください。



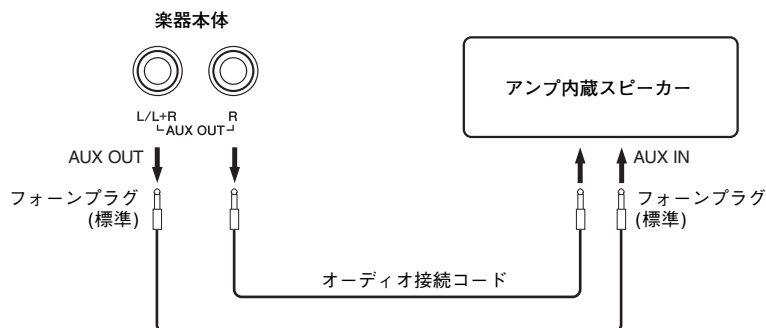
モノ入力には、AUX IN [L/L+R]端子をご使用ください。

② ^{アウト}AUX OUT [L/L+R] [R] 端子

アンプ内蔵スピーカーなどを接続して、より大きな音を出すことができます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

⚠ 注意

楽器本体のAUX OUTを使う場合、電源を入れるときは楽器本体→外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは、外部オーディオ機器→楽器本体の順に行なってください。



③ ^{ミディ イン アウト}MIDI [IN] [OUT] 端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続する端子です。詳しくは33ページの「MIDIについて」をご覧ください。

オーディオ接続コードおよび変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

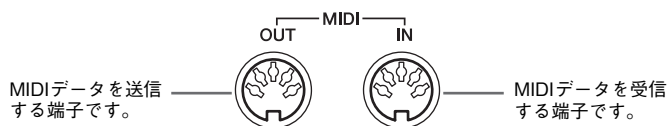
AUX OUTから出力した音をAUX INに戻すと、AUX INから入力された音は楽器本体のスピーカーから出力されます。スピーカーから出力される音は大音量となり音が割れることがありますので、ご注意ください。

モノ出力には、AUX OUT [L/L+R] 端子をご使用ください。

ミディ MIDIについて

MIDI(Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器(電子楽器など)間や、MIDI機器とコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。

MIDI機器間(またはMIDI機器とコンピューター間)でMIDIデータを送受信することにより、電子楽器から外部MIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器やコンピューターから電子楽器をコントロールしたりできます。



MIDI機器を接続するには、専用のMIDIケーブル(別売)をご用意ください。

MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。共通に扱えるデータや命令は、データリストの「MIDIインプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。データリストは、ヤマハのウェブサイトからダウンロードできます(3ページ)。

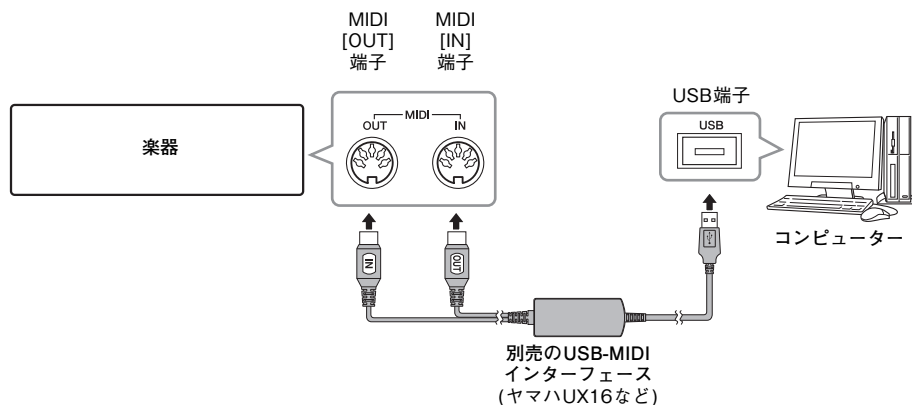
この楽器から音色デモ曲やプリセットソングのデータは送信できません。

コンピューターと接続する

コンピューターをこの楽器のMIDI端子につなげば、コンピューターとの間でMIDIデータを送受信できるようになります。たとえば、この楽器で演奏した演奏情報をコンピューターに送信してコンピューターに記録することができます。

⚠ 注意

コンピューターと接続する場合は、最初に、この楽器とコンピューターの電源を切った状態でケーブル接続を行ない、その後コンピューター→楽器の順番で、電源を入れてください。



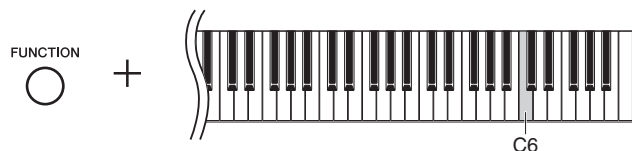
コンピューターのUSB端子と楽器のMIDI端子を、別売のUSB-MIDIインターフェース(ヤマハUX16など)を使って接続します。USB-MIDIインターフェースを使用するには、ドライバーを正しくインストールする必要があります。詳しくは、USB-MIDIインターフェースに付属の取扱説明書をご参照ください。

コンピューターと楽器間でMIDIデータを送受信するためには、コンピューター側にアプリケーションソフトが必要です。

ローカルコントロールオン/オフの設定をする

通常、この楽器の鍵盤を弾くと本体内部の「音源」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。「ローカルコントロールをオフ」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもこの楽器からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データはMIDI送信されますので、この楽器の音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをオフにします。

ファンクション
[FUNCTION]ボタンを押したままC6鍵盤を押します。C6鍵盤を押すたびにローカルコントロールオン/オフが切り替わります。



メッセージ一覧

メッセージ	メッセージ内容
0 0 1	USBフラッシュメモリー、またはメディアにアクセスできません。 →USBフラッシュメモリーをいったん外してから、接続し直してください。それでもこのエラーメッセージが表示される場合は、別のUSBフラッシュメモリー、またはメディアをお使いください。
0 0 2	ソング(曲データ)を正常に読み取れません。
0 0 4	ソング(曲データ)が大きすぎて読み込めません。
0 0 5	USBフラッシュメモリー、またはメディアがフォーマットされていません。 →コンピューターで必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください(29ページ)。
0 0 6	プロテクトのかかったソング(曲データ)が読み取れません。
0 0 7	ソング(曲データ)ファイルがありません。
0 0 8	USBフラッシュメモリー、またはメディアが接続されていません。 →USBフラッシュメモリー、またはメディアを接続してください。
0 1 4	USBフラッシュメモリー、またはメディア内に、保存しようとしているファイル名と同じ名前のフォルダーが存在するため、保存できません。 →コンピューターを使ってフォルダー名を変更してください。
0 2 0	このUSB機器は、この楽器では使えません。 →動作確認済みのUSB機器をお使いください。
0 2 2	接続できるUSBフラッシュメモリーの数が増えすぎました。 →「USB記憶装置の取り扱いについて」をお読みください(26ページ)。
0 2 3	USBフラッシュメモリー、またはメディアの接続に失敗しました。 →USBフラッシュメモリー、またはメディアをいったん外してから接続し直してください。
0 2 4	USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました。 →USB機器をUSB [TO DEVICE]端子から抜き、本体の電源を入れ直してください。
- - -	処理中です。
C L r	楽器を初期化しています。
E S 3	鍵盤の設定に失敗しました。
E S 4	→巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。
E n d	処理が終わりました。
F U L	本体内部メモリーに残容量がありません。 ファイルやフォルダーの数が増えすぎました。 USBフラッシュメモリー、またはメディアに残容量がありません。
F o r	USBフラッシュメモリー、またはメディアのフォーマットモードに入っています。
n y	フォーマットを実行しますか？
P r o	USBフラッシュメモリー、またはメディアにライトプロテクトがかかっているため、書き込みができません。

* 処理中を表すメッセージ(---)は、「-」→「--」→「---」→「-」…と表示されます。

* メッセージを消すには、[+]または[-]ボタンを押してください。

困ったときは

現象	考えられる原因	解決法
本体の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません(本体側とコンセント側)。	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(9ページ)。
本体から雑音が出る。	本体の近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。	本体の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。本体の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	異常ではありません。
全体的に音が小さい。 まったく音が出ない。	音量が下がっています。	[MASTER VOLUME]つまみを回して音量を上げてください(10ページ)。
	ヘッドフォンを接続しています。	ヘッドフォンのプラグを抜いてください(11ページ)。
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください(34ページ)。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
音が出ない鍵盤がある。	鍵盤を押したまま電源を入れると、音が正常に出ないことがあります。	電源を入れ直してください。このとき鍵盤を触らないでください(9ページ)。
AUX IN端子から入力した音が途切れる。	AUX IN端子に接続した外部機器の音量(出力レベル)が小さいためです。	AUX INに接続した機器側の音量(出力レベル)を上げてください。楽器本体から出す音量の調節は、[MASTER VOLUME]つまみで行なってください。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[PEDAL]端子にしっかり差し込まれていません。	本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[PEDAL]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかり差し込んでください(38ページ)。
	ダンパーペダルを踏んだまま電源を入れたためです。	故障ではありません。ダンパーペダルを踏み直すと機能が回復します。
USBフラッシュメモリーがフリーズする。	USBフラッシュメモリーの動作が不安定になっています。	USBフラッシュメモリーをいったん外してから、接続し直してください。
	動作確認されていないUSBフラッシュメモリーです。	動作確認済みのUSBフラッシュメモリーをご使用ください(26ページ)。

* メッセージ一覧(35ページ)もご参照ください。

楽器のお手入れ

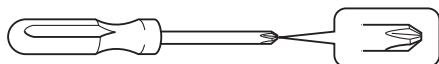
表面のつやがなくなってきたときは、ピアノ用の外装手入れ剤を含ませた布でムラなく拭きあげてください。お手入れ用品は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

N1の組み立て方

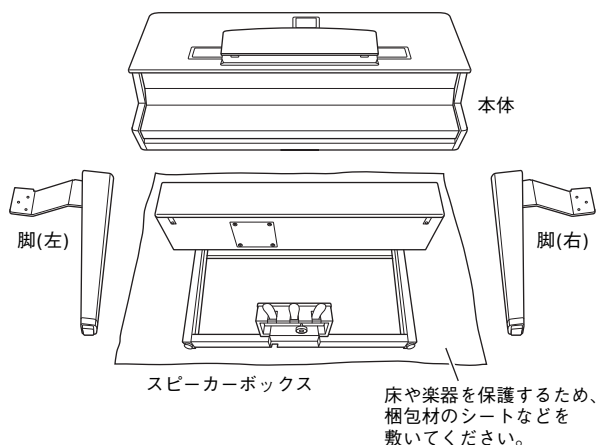
⚠ 注意

- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 分解するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

ネジのサイズに合ったプラス(+)のドライバーを用意してください。



本体以外の部品を取り出し、部品がすべてそろっているか確かめてください。本体は、手順3までは箱から取り出さないでください。



長いネジ×10
(6×30mm)



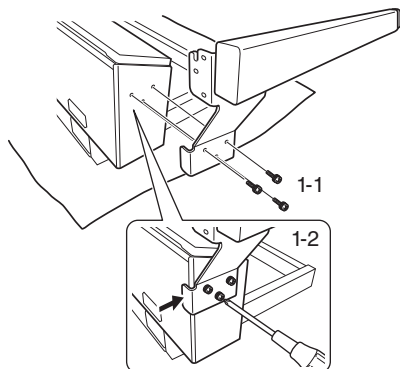
短いネジ×6
(6×20mm)



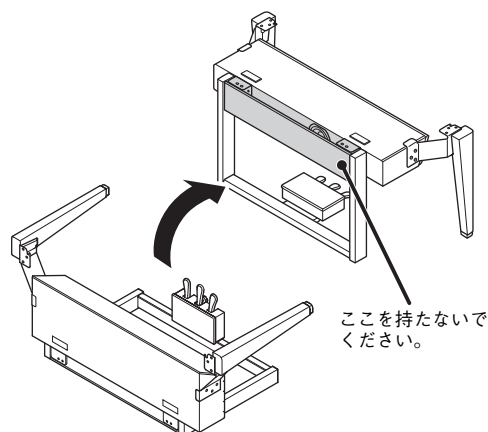
電源コード×1

1 スピーカーボックスに脚を固定する

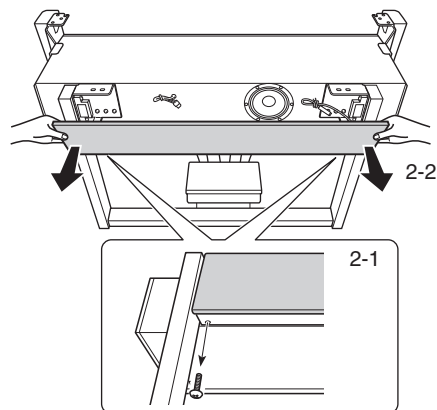
- 1-1 スピーカーボックスの側面に片脚を短いネジ (6×20mm) 3本で仮留めする。
- 1-2 脚の金具をスピーカーボックスに押しつけながら仮留めたネジをきつく締め直す。
- 1-3 もう一方の脚も同様に固定する。



- 1-4 スピーカーボックスを起こす。



2 スピーカーネットを外す



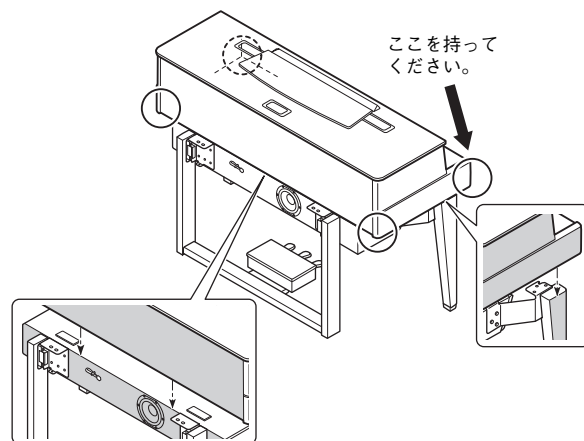
- 2-1 ネジを2本外す。外したネジは、手順6で使います。
- 2-2 スピーカーネットを外す。

3 本体をのせる

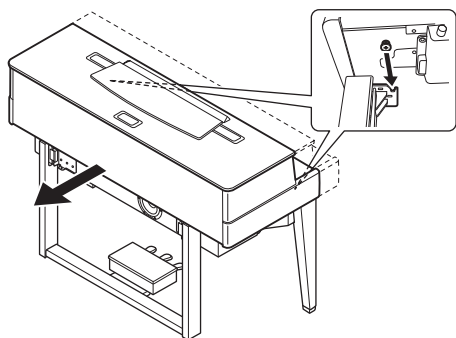
- 3-1 図のように、本体をスピーカーボックスの背面と脚の側面に位置をそろえてのせる。

⚠ 注意

本体をのせるときに指をはさまないようにご注意ください。

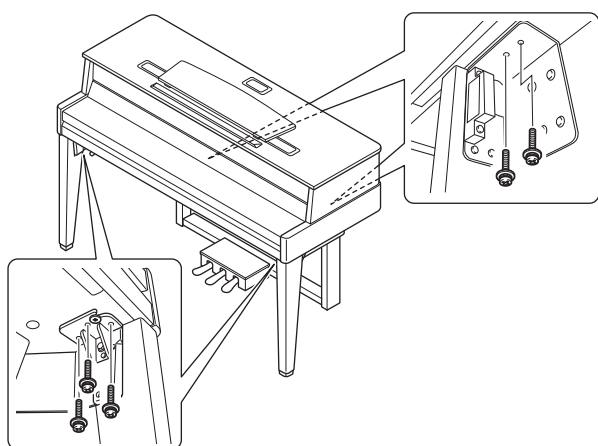


- 3-2 本体を背面側にずらし、本体底面の金具を両脚の金具の溝に合わせる。

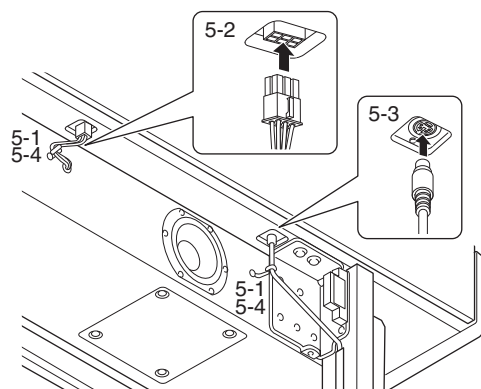


4 本体を固定する

長いネジ(6x30mm)10本で固定する。



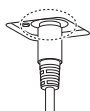
5 スピーカーコードとペダルコードを接続する



- 5-1 スピーカーコードとペダルコードをほどく。
 5-2 スピーカーコードのプラグを、つめが背面から見て手前になる向きで、端子に差し込む。
 5-3 ペダルコードのプラグを向きに注意してペダル端子に差し込む。

ペダルコードを接続するときは

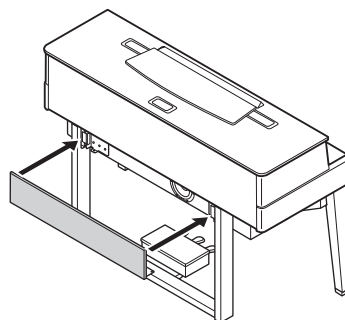
プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。



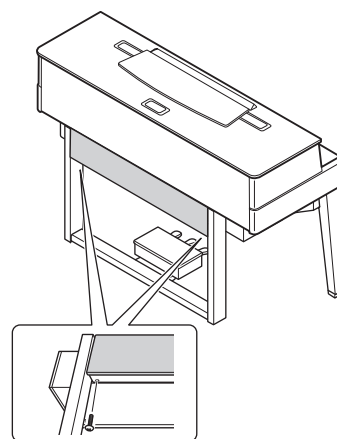
- 5-4 スピーカーコードとペダルコードをビニールひもで束ねる。

6 スピーカーネットを取り付ける

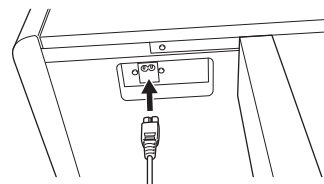
- 6-1 スピーカーネットを貼り付ける。



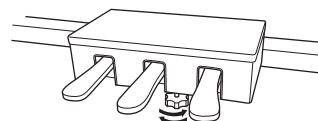
- 6-2 手順2で外したネジでスピーカーネットを固定する。



7 電源コードのプラグを差し込む



8 アジャスターを回して、床にぴったりつける



■ 組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？ → 組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどが楽器にあたいませんか？ → 楽器を移動してください。
- 楽器がぐらぐらしませんか？ → ネジを確実に締めてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？ → 確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

仕様

サイズ/質量	寸法	幅	1,465mm
		高さ	995mm (譜面立てを立てた場合：1,170mm)
		奥行き	618mm
	質量		124kg
操作子	鍵盤	鍵盤数	88 (A-1～C7)
		鍵盤種(白鍵)	アクリペット ※「アクリペット」は、三菱レイヨン株式会社の登録商標です。
		鍵盤種(黒鍵)	フェノール
		タッチ感度	フィックス/ソフト/ミディアム/ハード
	センサー	ハンマー部	非接触式
		鍵盤部	非接触式
	ペダル	ペダル数	3
		ハーフペダル	○
		ペダル機能	ダンパー (ハーフペダル対応)、ソステヌート、ソフト
本体	鍵盤蓋		○
	譜面立て		○
音源/音色	音源	音源方式	スペシャル・アコースティック・サンプリング
		サステインサンプリング	○
		キーオフサンプリング	○
		ストリングレゾナンス	○
	発音数	最大同時発音数	256
	プリセット	音色数	5
効果	タイプ	リバーブ	○
録音再生	プリセット	内蔵曲数	プリセットソング 10曲、音色デモ 5曲
	録音	録音曲数	1曲 約300KB (約30,000音符)
		録音トラック数	1
ファンクション	全体設定	メトロノーム	○
		テンポ	○
		トランスポーズ	○
		チューニング	○
		スケール	7
接続端子	MIDI		IN/OUT
	ヘッドフォン		[PHONES]×2
	AUX IN		[L/L+R] [R]
	AUX OUT		[L/L+R] [R]
	USB TO DEVICE		○
アンプ/スピーカー	アンプ出力		25W×1 + 30W×5
	スピーカー		8cm×3+13cm×2+16cm×1
電源	電源		AC 100V、50/60Hz
	消費電力		70W
付属品	同梱品		保証書、取扱説明書(本書)、電源コード、キーカバー、 高低自在イス、ユーザー登録のご案内

* 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

別売品のご紹介

ヘッドフォン	HPE-160
USB-MIDIインターフェース	UX16

索引

A

AC IN.....	9
AUX IN.....	31
AUX OUT.....	32

D

DEMO/SONG (デモ/ソング)	13, 16, 24, 27
-----------------------------	----------------

F

FUNCTION (ファンクション)	20, 21, 22, 34
-----------------------------	----------------

M

MATER VOLUME (マスターボリューム).....	10
METRONOME (メトロノーム).....	17
MIDI (ミディ).....	33

P

PHONES (フォーンズ).....	11
PIANO/VOICE (ピアノ/ボイス).....	15
PLAY/STOP (プレイ/ストップ)	13, 16, 24, 27

R

RECORD (レコード).....	23
REVERB (リバーブ).....	19

U

USB TO DEVICE.....	26
USB記憶装置.....	26
USBソング.....	27
USBフラッシュメモリー.....	27

あ

アフターサービス.....	43
安全上のご注意.....	4

い

移調→トランスポーズ.....	20
イニシャライズ→初期化.....	30

お

音の高さ→チューニング.....	21
音色.....	15
音色デモ曲.....	16
音律.....	22
音量(全体音量).....	10
音量(メトロノーム).....	18

か

楽譜立て→譜面立て.....	12
画面.....	8

き

キー(調)→トランスポーズ.....	20
キーカバー→鍵盤蓋.....	9
基音→ベース音.....	22
記録→録音.....	23

く

クイックオペレーションガイド.....	41
組み立て.....	37

け

鍵盤蓋.....	9
----------	---

こ

困ったときは.....	36
-------------	----

さ

再生(USBソング).....	27
再生(デモ曲).....	16
再生(プリセットソング).....	13
再生(ユーザーソング).....	24
削除.....	24
残響→リバーブ.....	19

し

仕様.....	39
初期化(USBフラッシュメモリー).....	29
初期化(楽器).....	30

す

スケールチューニング→音律.....	22
--------------------	----

た

タッチ.....	19
端子.....	31

ち

チューニング.....	21
調律.....	7

て

データリスト.....	3
ディスプレイ→画面.....	8
デモ曲→音色デモ曲.....	16
電源.....	9
テンポ.....	17

と

トラブルシューティング →困ったときは.....	36
トランスポーズ.....	20

な

内蔵曲→プリセットソング.....	13
-------------------	----

は

バックアップデータ.....	30
----------------	----

ひ

拍子.....	18
---------	----

ふ

フォーマット(初期化).....	29
フォーマット(データ形式).....	28
付属品.....	3
蓋→鍵盤蓋.....	9
譜面立て.....	12
プリセットソング.....	13

へ

ベース音.....	22
ペダル.....	11
ヘッドフォン.....	11

ほ

ボイス→音色.....	15
保存.....	25
ボリューム→音量(全体音量).....	10
ボリューム→音量(メトロノーム).....	18

め

メッセージ一覧.....	35
メトロノーム.....	17

も

文字種.....	27
----------	----

ゆ

ユーザーソング.....	24
--------------	----

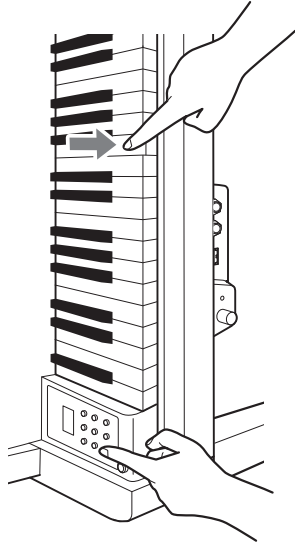
り

リバーブ.....	19
-----------	----

ろ

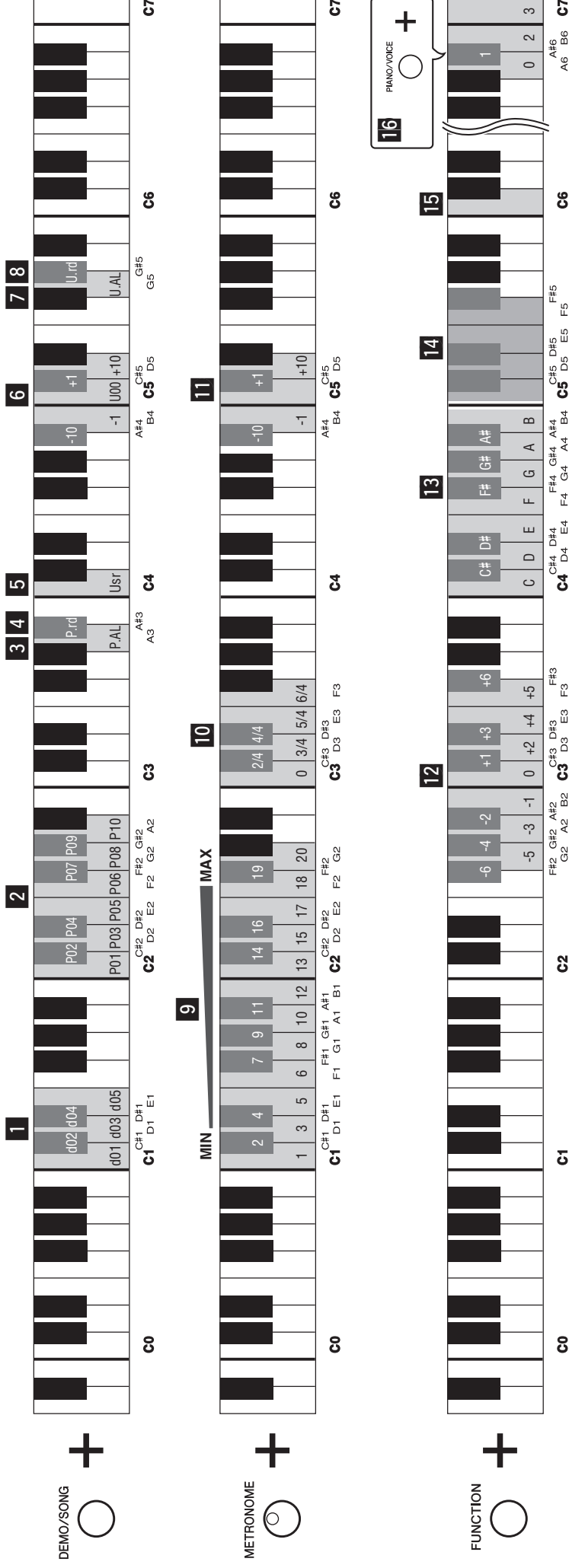
ローカルコントロール.....	34
録音.....	23

クイックオペレーションガイド



操作パネルのボタンを押したまま該当する鍵盤を押して、ソングを選んだり値を設定したりします。

- | | | | |
|----------------------------|---------|----------------------------|---------|
| 1 音色デモ再生 | (16ページ) | 9 メトロノームの音量 | (18ページ) |
| 2 プリセットソング再生 | (14ページ) | 10 メトロノームの拍子 | (18ページ) |
| 3 プリセットソング再生 : オール | (14ページ) | 11 メトロノーム/ソングのテンポ | (17ページ) |
| 4 プリセットソング再生 : ランダム | (14ページ) | 12 トランスポーズ | (20ページ) |
| 5 ユーザーソング再生 | (24ページ) | 13 基音 | (22ページ) |
| 6 USBソング再生 | (27ページ) | 14 音律 | (22ページ) |
| 7 USBソング再生 : オール | (27ページ) | 15 ローターコントロール オン/オフ | (34ページ) |
| 8 USBソング再生 : ランダム | (27ページ) | 16 タッチ感度 | (19ページ) |



Memo

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。
下記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

● ナビダイヤル

(全国共通番号)



0570-012-808

※ 一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは TEL **053-460-4830**

● 受付時間

月曜日～金曜日 9:00～18:00、土曜日 9:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

● FAX

053-463-1127

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間

月曜日～金曜日 9:00～17:45

(祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	FAX 011-512-6109
首都圏サービスセンター	〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F	FAX 03-5762-2125
名古屋サービスセンター	〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F	FAX 052-652-0043
大阪サービスセンター	〒564-0052 吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F	FAX 06-6330-5535
九州サービスステーション	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4	FAX 092-472-2137

*名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

AvantGrandの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

ナビダイヤル  **0570-006-808**
市内通話料でOK
ナビダイヤル®

(携帯電話、PHS、IP電話からは 053-460-5272)

営業時間：月曜日～金曜日 10:00～18:00、土曜日 10:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

<http://jp.yamaha.com/support/>

AvantGrand スペシャルサイト

<http://www.yamaha.co.jp/product/piano-keyboard/avantgrand/>

ピアノ/キーボードのホームページ

<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/>

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイー klub

<http://www.music-eclub.com/>

ピアノ事業部 営業部

〒436-0038 静岡県掛川市領家1480

- 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください